

評価システムで  
教員は人間不信へ

丹羽野 「校長先生を全て民間から公募して任期付で任命する」という点も常識では考えられないのですが…。

小野田 学校の管理職なんて片手間でできる、教育上の識見があるほうがなかるうが、ともかくマネジメント能力がある者を優先的に配置する、という趣旨です。見逃せないのは、「勤務時間内にあっても一定の条件が認められれば、教育公務員は別に給与を受けることが可能」という条項を、「弾力的に運用する」と強調しているのです。つまり今回の条例で、高校の校長に任命される人々は、コンサルタント業、企業の管理職などが多いと考えられます。そんな人たちが応募しやすいように、副業としての仕事を続けてもらって結構です、ということでしょう。

つまりいつでも辞めて副業に専念でき、任期がついている人



り、架線トラブルであったり、駅員の責任ではないのに、言いやすいところにイライラをぶつけてしまう。この構図は公務員や教師も一緒。橋下知事は一番攻撃しやすいところ、つまり大阪府の職員や教師を責めて、その姿を府民に見せることによって、府民のストレスを幾分か解消させて、相対的に自分の人気上昇を図ってきたのです。

マスコミにも問題  
本質に迫る報道少ない

丹羽野 その行き着く先が教育基本条例と職員基本条例ですね。しかしさすがに「橋下知事はやり過ぎや」「元のテレビタレントに戻つて」という声が出てきています。一方で「とにかく一回、壊してくれ」「強引やけど何かやってくれそう」という声もありますね。

小野田 マスコミの報道にも問題があります。橋下知事の発言はテレビで長く報道するのに、反対の論陣を張る人々の集会や

に強大な人事管理権が与えられるのです。

丹羽野 問題の多い教員の評価システムを、民間出身の、教育現場をあまり知らず、三〜五年しかない校長が行うのですね。S、A、B、C、Dの5段階に分けて、2年連続Dを取った教師はクビも視野に入れた分限処分。それも相対評価なので、校長は毎年5%の教師にDをつけなければなりません。

小野田 公立学校に市場原理を導入するのですよ。でも本当にそれでいいのか？モノを作る工場や企業と、子どもの成育を助ける教育現場とを、同じように扱っていいのか？この条例では、学校の教師たちは「株」橋下商会の代理店(校長)の、従業員か召使い」のような関係になつてしまふのです。当然教師はD評価を喰らわれないように、積極的に動かなくなる。成功すればS、失敗すればDなら、動かないでBを目指しますよ。

丹羽野 いろんな先生がいるから、学校が楽しいのであって、いろんな先生が文化祭や体育祭をはじめ、「ちょっととした冒険」

自分には無関係だと思つてほしくない。そして橋下知事には、大阪はあなたの所有物ではないと言いたい…小野田

デモなどの様子はほとんど報道しません。こんなに危険な条例なのに、府民の間で慎重に議論する時間もなく、短期間で決着されそうな状況です。マスコミの多くが、これを大阪府下だけの一地方の問題であるかのように扱っています。でもこれは大阪だけの問題ではなく、全国ニュースや全国紙がもっと取り上げて議論すべき問題です。最近ようやく「地方の教育行政は首長ではなく、教育委員会の権限。条例案を認めると、首長の選挙のたびに当選者の考えで学校教育がコロコロ変わってしまう事態に陥る」(高橋寛人・横浜市立大学教授。共同通信)とか「思い通りに動かせない教育委員会に不満を持つ首長は、橋下さんだけではない。大阪で条例化できるのならうちも、と考えるところが出てくる」(中嶋哲彦・名古屋大学大学院教授。朝日新聞)などの意見が掲載されるようになってきました。でもまだまだ

をしてくれるから、子どもも育つていくのではないのでしょうか？

小野田 校長にごまをすつて接待する教師が増えるでしょう。逆に内部ではチクリ合戦が起ころのではないですか？誰かをDに落とさないと自分がDになるかもしれない。かくして教師は人間不信に陥り、職場は荒んでいくでしょう。

丹羽野 子どもたちに、人を信用することが大事なんだよ、人を裏

訴訟だらけになる  
学校現場

丹羽野 訴訟が増えるでしょうね。「何で俺がDやねん！」と。大阪が異常に裁判の多い都道府県になりそうです。

小野田 現行の評価システムは絶対評価なので、Dがつく教師は全体の1%以下。それでも評価に納得しない教師によって、訴訟が続出しました。今回の条例案が通れば、訴訟だらけですよ。相対評価で5%は無理矢理Dにしなければいけないのですから。でも子どもたちの健全な成長を保障する教育現場こ

切つたらいけないよ、と教えるべき教師が人間不信になってしまえば、人権教育やいじめ防止の教育など「人の命を大事にする」教育などできなくなつてしまいますね。

小野田 逆に校長は「好き嫌い」で教師をクビにすることができません。「あいつ職員会議で俺に歯向かったな」「あの顔見てるだけでムシヤクシヤする」。失職が恐ろしいので、面従腹背の教師が増えていく。

そ、ゆとりが必要なのです。ただでさえ、今の日本社会は格差が広がり、ギスギスしています。労働者派遣法の改悪で、簡単にクビを切られ失業するようになり、企業は「国際競争に勝ち抜くため」という口実で賃上げをしなくなった。結果、国民の間に「誰にぶつけて良いか分からない不満」が充満した。それで人々はイライラをぶつけてやすいところ、言いやすいところに不満のはけ口を持つていきます。制服がその象徴。ちょっとしたでも電車が遅れると、駅員に食つて掛かる人がいるでしょ？電車の遅れは人身事故であつた

「本質に迫る報道」は少ないように感じます。

丹羽野 我々も無関心ではなく、もっとこの条例案と、これが出てきた背景について議論をしていくべきですね。今年4月は「維新」というだけでたくさんの方議員さんが当選されました。でも、その政策についてどれほどみなさん議論されたか、何か「イメージだけ」で、選んでしまつて後悔している人も多いのではないかと思うのです。

小野田 例えば大阪湾のWTCも、橋下知事は最初、「これほど素晴らしい物件はない」と言っていたでしょう、パッと見たイメージで。でも今回の地震でWTCは「使えないビル」であることが証明されました。結果、巨額の税金が無駄に使われてしまったのです。

「こんなはずではなかった」と後で後悔しないようにしたい。人類が多くの犠牲と努力の

「教育基本条例反対の輪」を広げていかないとダメですね



丹羽野 和夫さん